

【令和5年度 学校評価】

項目(担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
本年度の 重点目標	①自主自律の意識を向上させ、学習活動・生徒会活動・部活動に主体的に取り組ませる。 ②新学習指導要領の趣旨を踏まえ、授業改善を進めるとともにICT機器の効果的な利用方法や観点別評価について研究を深める。 ③ワールド・ワイド・ラーニングコンソーシアム構築支援事業を推進するとともに、SDGs（持続可能な開発目標）の視点をもって国際理解教育を推進する。 ④学校生活全般の様々な指導を通して、自他の生命の尊重と規範意識の高揚を図る。 ⑤それぞれの目線でとらえた生徒の情報を共有することで、生徒に対する、より多面的で深い理解を得よう努める。 ⑥勤務時間を適切に設定し、業務の適正化を図るとともに教職員のメンタルヘルスの保持と健康障害の防止に努める。		
学校行事 (総務課)	*式典・行事の充実 *学校と家庭との連携強化	*感染症対策を講じた上でできるだけ対面で式典・行事を行う。 *PTA総会・PTA理事会・PTA諸活動を充実させ、学校と家庭の連携を進める機会となるようにする。	*式典・行事について対面により実施できた。 *PTA理事会では事前に質問を集約することにより、理事の方から忌憚ないご意見をいただくことができ、学校と家庭の連携を進めることができた。
安全 (総務課)	*防災教育の充実	*防災マニュアルの見直しを随時行う。 *在校中及び登下校時等に災害が起きた場合の具体的な対応を職員及び生徒が予めシミュレーションできるようにする。	*防災マニュアルを改定するとともに不審者対応マニュアルを「危機管理マニュアル」として統合した。 *来年度の防災訓練はより実効的な内容に改めて実施していく。
学習指導 (教務課)	*授業改善に取り組む。	*生徒の興味を引き出す授業を行う。 *発見学習・問題解決学習・調査学習など参加型学習を授業に取り入れる。 *授業公開と参観を推進する。	*研究授業において、内容や方法に工夫がみられる授業が多く実施された。 *WWL事業の実施に伴い総合的な探究の時間に調査・発見・問題解決型の学習活動の発表会を行った。 *春・秋の授業公開週間に合わせ複数の研究授業が実施され教員間で授業に関する意見交換がなされた。
生徒指導 (生徒課)	*自己を律する力を身につけさせる。 *規範意識を高めさせる。 *社会の状況に見合った校則の再検討	*安易な遅刻や早退を減らし、基本的な生活習慣を確立させる。 *身だしなみの意識を高めさせる。 *ネットトラブルを未然に防止し、情報モラルの意識を高めさせる。 *生徒会活動・学年との連携を深める。 *服装や規則に関する校則について、再検討する。	*生活委員を通じて遅刻を減らす声掛けを行った。昨年比1000人以上減少させることができた。 *服装について規定を再検討した。今年度よりカーディガンのみでの登下校を認めた。また、年度末には私服併用期間を実施し、制服の在り方について見直す機会とした。
特別活動 (特活課)	*生徒会活動の情報発信 *安全な行事の運営 *部活動の活性化	*HPを最大限活用し、生徒会活動を外部に発信していく *休憩時間をとる等、全体に余裕を持たせた計画をする。 *部内だけの関わりだけではなく、他の部活動と連携しながら、学校全体の活性化につなげていく。	*今年度は多くの行事を行えた。コロナ前の状況に一番近い形で様々な行事を行えたことは大きなことである。運営委員の生徒の努力が大きかったと思う。今年度の内容をしっかりと見据え次年度の活動につなげていきたい。 *長年変更のなかった、部活動の整理、部活動規約・生徒会選挙規定の改定を行った。時代の流れを意識しての変更であるが、本校の特色を残した形で規定改定が出来たと思う。
進路指導 (進路課)	*自己の在り方生き方を考え、主体的に進路選択・決定できるよう、キャリア教育を推進する。	*キャリア教育を推進する。 *実力考査のあり方と資料の充実を図る。 *2年次の学習意欲の低下を防ぐ。 *校外模試の有効利用を図る。 *学年会との協力関係を強化する。	*キャリア教育の充実が努めることができた。 *実力考査の意義は引き続き考えていく必要がある。 *2年次の学力低下は課題として残った。 *校外模試を精査し、より良い活用を考えることができた。 *今後も継続して学年会と協力していきたい。
学校保健 (保健厚生課)	*生徒の健康状態把握 *教育相談の充実 *清掃活動の充実	*日常の健康観察を丁寧に行い、生徒が健康的に過ごすことができるように支援する。 *生徒の教育相談について、校内及びSCとも連携し、チームで支援する。 *清掃活動の充実を図る。	*スクールエンジンの活用により、生徒健康観察の効果的把握を行うことができた。 *SC、学年、担任と連携協力して教育相談を行うことができた。 *事務と連携して不用品廃棄等、校内環境整備に努めた。ワックスがけの回数を減らした。
図書指導 (図書館課)	*生徒の読書意欲の向上 *図書館設備の充実 *図書館蔵書の整理 *視聴覚教室の整備	*生徒の読書意欲が向上するような具体的な方策を出し、全職員の協力を仰ぎながら学校として、読書活動を推進する。 *図書館の利便性の向上を図る。 *古い蔵書の廃棄を進める。 *視聴覚教室の積極的な整備を行う。	*「ポスター掲示や教室での声掛け、推しの本など」取り組み、貸出冊数は昨年度の1.6倍になった。 *イスを2席に戻し、貸出数だけでなく学習室としての利用者も増えた。 *令和6年度の改修工事を見据えて、各分掌・各教科に廃棄本選定を促したが十分には行われていない。 *視聴覚教室は、アンプを新しいものにしワイアレスマイク、有線マイク等整備し利用しやすい環境の整備ができた。
国際理解教育 (国際課)	*SDG s に学校全体で取り組み、国際理解教育・国際交流を推進する。 *国際教養科の充実・発展を図る。	*国際理解を深めるための啓発活動(国際課通信ChigUNESCOの発行、留学体験報告など)を継続して行う。 *国際理解講演会、異文化講座など国際課が主催する行事の一層の充実を図る。 *留学生の受け入れを積極的に行う。 *海外進学や留学、海外への派遣事業などの情報を伝達し、希望する生徒への支援を行う。 *外国人講師との連携を密にし、国際教養科の授業内容を一層充実したものにしていく。 *「グローバル探究」の円滑な実践と研究を推進する。	*文化委員会と連携し、国際課通信を年5回発行し、国際理解講演会や異文化講座の内容、また、グローバル探究の授業内の特別講義を記事にし、全校生徒・教員と情報共有することができた。 *国際理解講演会や異文化講座は、事前の打ち合わせや準備等もしっかりと行い円滑に実施することができた。アンケート結果より、どちらも生徒にも大変好評であったことが伺え、大きな学びの機会を提供でき、国際理解を深めることができた。 *留学生との交流会を年4回行い、愛知県を住みやすい街にするための提案を英語で行った。また、国際会議を行い、韓国の高校生とオンラインでSDG s について英語で発表し合い、交流を深めることができた。 *外国人講師と綿密に連絡を取り、日常の授業や成績処理等円滑に進めることができた。 *グローバル探究を軌道に乗せることができ、校内発表も行った。3年生は卒業論文も完成させた。